

審 議 会 会 議 録

会議名称	平成25年度 第2回伊達市立図書館運営協力会		
議 題	(1)伊達市立図書館の運営について		
開催日時	平成25年9月26日(木) 14時00分～16時00分		
場 所	伊達市立図書館 2階 視聴覚室		
出席者	伊達市立図書館運営協力会委員 10名(欠席者0名) 事務局(伊達市教育委員会教育部図書館)		
	所管部課名	伊達市教育委員会教育部図書館	
公開 非公開 の 別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	0名
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<p>【会議の概要】 開会后、会長より挨拶があり、その後質疑・意見交換に入り、最後に次回会議の日程・内容について示された。</p> <p>議 題</p> <p>(1)伊達市立図書館の運営について 会 長～今回の会議の内容は「図書館の運営について」ということで、意見を聞かせていただきたい。 会議が始まる前に、事務局から議題について説明をお願いします。</p> <p>事務局～図書館としては、日頃から運営協力会等からのご意見を伺いながら、より良い図書館運営に努めているところですが、委員の中にはまだまだいろいろな良い考えやアイデアをお持ちの方もいらっしゃると思うことから、協力会で更にご意見を伺いたいということです。</p> <p>部 長～運営協力会の方々からは、今まで提言書等で図書館のあり方について提言していただいているが、ご意見をいただく中で図書館としての考えをまとめていきたい。現代にマッチした図書館を作り上げていきたい。</p> <p>会 長～それでは議題に入りますが、特に項目を設けなくて、どんなことでも良いのでランダムに意見・質問を出して頂きたい。</p> <p>委 員～遊び感覚で利用できる、図書館らしくない図書館をという感覚で考えてみた。</p>			

部 長～静かに本を読むだけの場所ではなく、そこで食事もできたりという感覚で良いと思う。

委 員～都会ではない伊達市立図書館のキーワードは、どこに基準を置いて考え発想したら良いか考えてみた。交通の便が良くないし、車を持っていない人や宿題をしに来る小中高校生等に対する配慮が必要と感じた。

委 員～現状の玄関は狭くて窮屈であり、きれいとは言えないスリッパに履き替えるのはかなり抵抗がある。こういう図書館は他にない。

委 員～過去の提言として、図書館としてのあるべき役割をハード・ソフト面含めて論議したことがあった。ソフトの面から議論すべきだと思う。委員は半数が替わっているので、どういう図書館が望ましいかという論議をしたい。参考資料としてみてもらいたいものがある。文科省が出した「図書館の望ましい基準」というもので、現在改訂されている。配付した文書にあとで目を通していただきたい。共通認識を持つ必要がある。

会 長～「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（文科省）は平成13年に示され、市町村立図書館は資料収集、レファレンスサービスの充実、高齢者等利用者に応じたサービス、多様な学習機会の提供、ボランティアの活用について図書館はPRしていくように記述されており、その後電子図書の活用が提示されているが、平成24年12月に一部改訂されている。

委 員～目新しいものに流されるのではなく、本来図書館が果たす役割を重視すべき。

会 長～イメージされていることはわかるが、以前お話を伺った登別の図書館長の考え方は、「図書館にとられることはなく、とにかくまず人を集める」という話があった。

委 員～図書館が閑古鳥が鳴くようでは意味がない。情報収集・発信、人とのめぐり合いの場を提供しなければ。

部 長～立派な本があっても利用されなければ意味がない。まず人を集めるための工夫を考えたい。体育館・プールに来た人にも利用してもらうように、図書館がどれだけつくりあげていくのかだと思う。

委 員～地方からの人や、下校時の学生さんにも来てもらえるような雰囲気づくりを。乳母車や車いすでも気軽に入れるように。また静かなところと少々声を出してもいいところを分けるべき。

委 員～すべての人に開かれた図書館として、車いすでも館内を自由に動き回れる図書館を考えた方がいいかなと。

委 員～玄関は明るく広い空間だと開放感が得られると思う。
学習スペースが少なく、又、コンセントもあればいいかなと思う。

委員～玄関を広くすることは理想だ。本を借りる時に受付に行かなくても借りられて返却はポストへ。また閉館時刻を遅らせると学校が遅くても利用できる。

委員～児童書(子ども)と一般書(大人)のコーナーは分けた方がいい。

委員～登別市図書館も1Fと2Fに分けている。

委員～パン・野菜等が買えるところをつくると人が来るのかなと。
視覚障がい者のコーナーがないが、点字本・大活字本・視覚資料(カセットテープ)は朗読ボランティアがいて、声の広報は社協が窓口になっているので、図書館に全部あれば一緒に利用できる。
また児童用の小さなトイレが必要だと思う。

委員～視覚障がい者のための来て聴くコーナーについて、スペースの問題がある。自分で買ったり借りたりするのが難しい人、図書館に来ることが難しい人の手助けを図書館ができないだろうか。インターネット環境があれば、全国の点字図書館が持っている図書を自宅に居ながらにしてダウンロードして聴くことができる。ボランティア団体や広報などにやっていただければと思う。点字本が500冊あっても意味がないし、英和辞典を点字本にすると25冊になるが意味がない。図書館の蔵書として持つ必要はない。今の時代テープは使われない。そういうものを利用できる環境があればなと思う。

事務局～それについては図書館としても、パソコンがあればダウンロードしCD等に出来たり、パソコンがない方や一人で操作できない方の手助け、スペースも考えていかないと検討している段階です。

委員～一坪位のスペースがあれば、そういう機械を置いておいて出来ることなので。

委員～これからの図書館はそういうことも必要。障がい者・高齢者・乳幼児を受け入れる目標を掲げても図書館の方だけでは対応できない。ボランティアの方に協力してもらわないと実際のところ運営できない。無報酬でもいいのでボランティアを募り、みんなで盛り上げていかないと誰も来ない図書館になっていく気がする。

会長～図書館の運営について、本質的な話をさせていただいていますが、施設についても出していただければと思う。

委員～今は自動販売機でもおいしいものがある。一番いいのは図書館の中で買って食べられること。インターネットカフェでは100～200円台でカレーを食べられる。

仕事の書類をちょっと直す等、図書館で出来たらいい。有料でプリントアウトもできるようにしたらお客さんが増えると思う。

もう一点、開館時間は最低21時までと思う。それと閉館日を設けないことが断然いいかと思う。職員の体制等いろいろあるでしょうが、検討をお願いしたい。職員目線ではなく利用者目線で見ると当然そうなるのかなと。

委員～伊達は特に人が集まる場所が少ない。休日どこかに行こうとなっても図書館にでも行こうとなるものか？

委員～休みは月曜日か。今日は何でお休み？

事務局～館内整理日で、月に一回、最終木曜日が休館です。

委員～どこの市町村も役所関係は月曜日休みで、どこに行っても休みである。

委員～道立図書館が月曜日休みである。

委員～島根県では学校図書館で小学校の社会科の授業をしている。

テーマに沿って調べものをする。学校図書館では冊数が足りないので、こういうところで施設拡充して対応しい授業をしている。高校生だと難しいが、小中学生なら今の蔵書で十分できる気がする。

委員～大学生が図書館に来て、博士論文を書くくらいのものがあってもいい。インターネット、パソコンを置いて。また高校生がゆっくり受験勉強できるだけのものが欲しい。

事務局～図書館の館内整理日(休館)には、蔵書整理等普段できない様々な作業を行い、次のサービスに備えている。開架の本の整理をしておかないとお客さんを受付で待たせてしまうことになるし、寄贈本の整理、廃棄本の整理もある。また“図書館は死角をつくらない”ということがあり、児童書コーナーに大人が近づくと気になる。出来ればカウンターから全て見渡せるようにしたい。女性誌のある部分が切り取られたこともあり、最近では週刊朝日のクイズの部分が毎週切り取られている。

会長～今のスペースの中で職員がセキュリティにも目配りをしている。

事務局～利用者には常に人の目があることを意識してもらうことも必要と考えている。他の図書館もそうだが出来るだけガラス張りとし、中で何をしているかがわかるようになっていいると思う。

委員～書棚の横に、本を探しているとき座って見られる椅子があればいいかなと。

委員～借りて返すだけの図書館ではなく、滞在する時間が長くなるようにしてもらいたい。

会長～これまで出てきた主な意見は、玄関を広くすること、大人と子どもの図書を分けること、児童用トイレの設置、インターネットコーナーの設置、学校図書との連携、開館時間や休館日の検討が今まで出ていたと思う。

平成19年の協力会発足後、何度か先進地視察をしたことがあるが、再度先進地を回った方がよいと思う。

委員～2週間前の朝日新聞の「未来の図書館」に武雄市図書館の記事が出ていた。ネットを見ても、街が活気づいたという話もあるが、利用者の声としてあまりいい話は出ていない。

また北海道の書店組合の声として、図書館と地元の書店が共同で発展で

きないかというのが出ていた。図書館の蔵書はどこから購入しているか。地域の書店から買うことはできないか。本屋がつぶれないで済む。

事務局～T R C (図書館流通センター)から購入している。図書購入は年間約3,000冊、額にして約420万円であり、地元の書店を経由して購入してきている。

委員～最近書店の閉店が多い。本離れをしているしネットで本を買える時代である。

委員～図書館のお手洗いは和式で不便なので改修を検討してほしい。障がい者トイレを子供が使っている。子供や高齢者等は洋式の方がいいはず。

事務局～和式を使えない子供(特に小学生)が増えてきているのは承知しており図書館としても何か良い方法がないか考えていたところです。

会長～以上、本日は、我々としてはこういうことを求めたいということ、テーマを決めずにランダムに意見を出していただきました。

事務局～様々なご意見ご要望等お聞かせ頂きありがとうございました。今後、図書館としてどのようにすべきか、検討していきたいと思えます。

会長～次回は「子どもの読書活動推進計画」について協議します。以上で終了とします。

【その他】

次回開催日程について

開催日時～平成25年10月24日(木) 14時から

場 所～伊達市立図書館 2階 視聴覚室